

化学品の名称: ビーム™ エイトゾル

発行日: 2020/10/28

印刷日: 2020/10/28

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: ビーム™ エイトゾル

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 殺菌剤

会社情報

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

100-6110

東京都千代田区永田町 2-11-1 山王パークタワー

会社電話番号 : 03-3519-3190

電子メールアドレス : SDS@corteva.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先 : 0800-170-5827

緊急連絡電話番号 : 0800-170-5827

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) - 区分 2 - 経口

水生環境有害性 短期 (急性) - 区分 3

水生環境有害性 長期 (慢性) - 区分 3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語: 警告!

#### 危険有害性情報

長期にわたる、又は反復ばく露（経口）による臓器の障害のおそれ（腎臓）。  
長期継続的影響によって水生生物に有害。

#### 注意書き

##### 安全対策

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
環境への放出を避けること。

##### 応急措置

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

##### 廃棄

内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

#### 他の有害危険性

データなし

---

### 3. 組成及び成分情報

---

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
エチレングリコール	107-21-1	2-230	(2)-230	12.9%
トリシクラゾール	41814-78-2		8-(3)-520	8.0%
水	7732-18-5	適用外	適用外	70.0%
その他の成分	不特定			9.1%

---

### 4. 応急措置

---

#### 必要な応急措置

一般的アドバイス:

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

**吸入:** 新鮮な空気の場所へ移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

**皮膚接触:** 直ちに、水で皮膚を洗い流し、その間に汚染された衣類や靴を脱がせる。症状がある時は、医師の診察を受ける。衣類は再び着用する前に洗うこと。靴、ベルト、時計のバンドなど、汚染された革製品は廃棄する。すぐに使用できる適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

**眼に入った場合:** 眼を開いたまま15~20分水道水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。作業場内に適切な緊急用洗眼設備を設置すること。

**飲み込んだ場合:** 無理に吐かせないこと。直ちに医師の診察を受ける。患者の意識が十分ある時は、コップ1杯または8オンス(240ml)の水を与える。医師の診察が遅くなる場合および成人が数オンス(約100-300ml)を誤飲した場合は、アルコール度数40度のウイスキーなどの蒸留酒3~4オンス(コップ1/3~1/2杯、90~120ml)を与える。小児には体重10ポンドあたり0.3オンス(スプーン1.5杯、8ml)、すなわち体重1kgあたり2mlの蒸留酒を与える。[例: 体重40ポンドの小児には1.2オンス(スプーン2と1/3)、体重18kgの小児には36ml]。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目11の有害性情報に記載されている。

#### 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

**医師に対する特別な注意事項:** エチレングリコール60~100mlを飲み込んだ場合は、早期にエタノールを投与すると毒性作用(代謝アシドーシス、腎障害)を阻止することがある。血液透析または腹膜透析のほか、チアミン100mgにピリドキシン50mgを加えて6時間ごとに静脈注射投与することを考慮する。エタノールを用いる時、急速初回投与に続いて持続静注することにより、治療に役立つ有効血中濃度100~150mg/dlに達するであろう。治療の詳細については、標準的文献を参照すること。4-メチルピラゾール(Antizol(R))はアルコールの脱水素酵素の有効な阻害剤であり、利用できるのであればエチレングリコール、ジエチレングリコール又はトリエチレングリコール、エチレングリコールブチルエーテル、メタノールの解毒に使用すべきである。フォメピゾール プロトコール (Brent, J. et al., New England Journal of Medicine, Feb. 8, 2001, 344: 6, P. 424-9): 初回投与量15mg/kgを静脈内投与し、次に10mg/kgを12時間ごとにボラス投与する。48時間後に12時間ごとのボラス投与量を15mg/kgに増量する。血清中にメタノール、EG, DEG, TEGが検出されなくなるまでフォメピゾールを続ける。中毒徴候や症状としてアニオンギャップ代謝酸血症、CNS低下、尿細管疾病があり、遅れて脳神経関連の症状があることがある。肺水腫などの呼吸器症状が遅発することがある。重大な暴露を受けた人は呼吸困難の徴候がみられないかどうか24~48時間観察する。重度の中毒を起こした時は、機械的換気および呼気終末陽圧などによる呼吸の支援が必要になる。胃洗浄を行う場合、気管内や食道の管理が必要である。胃洗浄を考える時は、肺への吸引による危険性と毒性影響を比較検討しなければならない。熱傷を負っている場合は、除染ののち、熱による熱傷と同じように治療する。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

---

---

## 5. 火災時の措置

---

**適切な消火剤:** 水噴霧または散細水。 粉末消火器。 二酸化炭素消火器。 泡消火剤。

**使ってはならない消火剤:** データなし

### 特有の危険有害性

**有害燃焼副産物:** 火災の場合、この製品の一部の成分が分解する可能性がある。煙は、特定されていない毒性や刺激性のある化合物を含有することがある。 燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 硫黄酸化物類。 窒素酸化物。 一酸化炭素。 二酸化炭素。

**異常な火災および爆発の危険:** この物質は、水が蒸発するまで燃焼しない。残留物は燃焼する可能性がある。

### 消防士へのアドバイス

**消火手順:** 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。 可能なら消防水の流出を防ぐ。消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。 本 SDS の「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

**消火を行う者の保護:** 陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。 消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。 火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

---

---

## 6. 漏出時の措置

---

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:** 場所を隔離する。 不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。 項目 7 の取扱い注意事項を参照。 適切な安全設備を用いること。 追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

**環境に対する注意事項:** 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材:** 可能なら、漏出物は回収する。 少規模の漏洩: 以下の物質で吸収させる: 粘土。 泥。 砂。 掃き取る。 正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。 大規模の漏洩: 清掃サポートについては、弊社にお問い合わせください。 追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

---

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

---

**取扱い:** 子供の手の届かないところに置くこと。 飲み込まない。 眼、皮膚、衣服との接触を避ける。 蒸気またはミストの吸入を避ける。 取り扱った後は十分に洗うこと。 容器を閉じて保管すること。 使用時には換気を十分に確保する。 このような有機物質が熱い繊維断熱材上にこぼれると、自然発火温度の低下が起り、自然発火に至る可能性がある。 項目 8 のばく露防止及び保護措置を参照。

**保管:** 乾燥した場所に保管すること。 納品時の容器でのみ保管する。 使用していないときは、容器の蓋をしっかりと閉めること。 食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
エチレングリコール	ACGIH	STEL エアロゾルのみ	10 mg/m <sup>3</sup>
	ACGIH	TWA 蒸気	25 ppm
	ACGIH	TWA 蒸気とエアロゾル	25 ppm
	ACGIH	STEL 蒸気	50 ppm
	ACGIH	STEL 蒸気とエアロゾル	50 ppm
	ACGIH	STEL 吸入濃度, エアロゾルのみ	10 mg/m <sup>3</sup>
	Dow IHG	TWA	50 mg/m <sup>3</sup>
トリシクラゾール	Dow IHG	STEL	100 mg/m <sup>3</sup>
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M	3 mg/m <sup>3</sup>

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

### 曝露防止

**工学的制御:** 局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

### 保護具

**呼吸用保護具:** 許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。ほとんどの場合、呼吸用保護具は必要ない。ただし、物質が高温であるか噴霧されている時は、認可された空気清浄呼吸器を使用する。

以下は効果的な過式呼吸用保護具の種類である: 防塵フィルター付き有機ガス用。

**手の保護具:** この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。必要があれば、高温から手を保護するために断熱材入りの手袋を使用する。望ましい手袋の素材の例: 天然ゴム(ラテックス)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。ポリエチレン。エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

**眼の保護具:** 安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。眼の不快感を引き起こす粒子に暴露する可能性がある時は、ケミカルゴーグルを着用する。ばく露により眼に不快感がある場合は、フルフェイス型呼吸器を使用する。

皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。高温の物質を取り扱う時は、皮膚からの吸収とともに、火傷から皮膚を保護する。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

---

### 外観

物理的状态	懸濁
色	黄色～赤色
臭い	データなし
臭いの閾値	データなし
pH	7.8
融点/ 範囲	データなし
凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	データなし
引火点	データなし
蒸発速度 (フイルアセート=1)	データなし
可燃性 (固体、気体)	データなし
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度 (空気=1)	データなし
比重・相対密度 (水=1)	データなし
水溶性	データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
動粘度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
液体密度	1.07 g/cm <sup>3</sup>
分子量	データなし

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

---

## 10. 安定性及び反応性

---

反応性: 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。

化学的安定性: 通常使用温度で熱安定性がある。

危険有害反応可能性: 重合は起こらない。

避けるべき条件: 製品は高温時に酸化する可能性がある。この製品の成分のいくつかは、高温で分解する。

混触危険物質: 以下との接触は避ける: 強酸化剤類。

危険有害な分解生成物: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 一酸化炭素。二酸化炭素。窒素酸化物。硫黄酸化物類。

---

## 11. 有害性情報

---

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

### 急性毒性

#### 急性毒性 (経口)

誤飲した場合、弱い毒性を示す。通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。

製品として。

LD50, ラット, > 5,000 mg/kg

製品として。

LD50, マウス, 3,391 mg/kg

#### 急性毒性 (経皮)

長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。繰り返し皮膚に大量に暴露すると、有害量を吸収するおそれがある。負傷した皮膚に大量の物質が接触した場合や、熱傷を負うほどの高温の物質に接触した場合は、死に至るおそれのある量を吸収することがある。

製品として。

LD50, ラット, > 2,000 mg/kg

#### 急性毒性 (吸入)

室温では、揮発性が低いので蒸気暴露は非常に少ない。換気が良ければ、一度の暴露で有害な影響はないであろう。物質が加熱されたり、換気が悪い場所では、蒸気・ミストが蓄積し、呼吸器を刺激したり、頭痛や吐き気などの症状を起こすかも知れない。

製品として。LC50 は決められていない。

### 皮膚腐食性/刺激性

短時間接触で、局部発赤を伴う皮膚刺激を起こすかもしれない。

### 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

軽度に眼を刺激することがある。

軽度の一過性角膜損傷を起こすことがある。

蒸気やミストは眼を刺激することがある。

### 感作性

皮膚感作性:

有効成分について:

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

マウスに接触アレルギーの可能性は認められなかった。

呼吸器感作性:

関連のあるデータは得られていない。

### 特定標的臓器毒性、単回ばく露

入手可能データは特定標的臓器毒性（単回ばく露）を決定するには不十分である。

### 特定標的臓器毒性、反復ばく露

少量成分について:

ヒトでの観察所見:

眼振症(不随意眼運動)。

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている:

肝臓

腎臓

有効成分について:

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている:

肝臓

腎臓

精巣

### 発がん性

成分の情報による: 動物試験では発がん性はなかった。

### 催奇形性

有効成分について: 動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

少量成分について: 動物試験では、大量のエチレングリコール経口摂取は、催奇形性を起こす主なそして唯一の暴露経路であろう。動物試験では、主な職業上の暴露経路である吸入や皮膚接触による胎児への影響は非常にわずかであった。

### 生殖毒性

有効成分について: 動物試験では、生殖を阻害しなかった。

少量成分について: 大量のエチレングリコールを経口摂取すると、動物では生殖阻害を示した。

### 変異原性

成分の情報による: In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

### 吸引性呼吸器有害性

入手可能な情報によると、吸引性呼吸器有害性は確定されていない。



毒性分析に影響を与えるコンポーネント:

#### エチレングリコール

##### 急性毒性 (吸入)

LC50, ラット, オスおよびメス, 6 h, 粉じん/ミスト, > 2.5 mg/l

#### トリシクラゾール

##### 急性毒性 (吸入)

物性上、蒸気は発生しにくい。長期間粉塵に過剰暴露すると、有害影響を起こすことがある。粉塵は上部呼吸器官(鼻や喉)を刺激するかもしれない。

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, 粉じん/ミスト, > 2.58 mg/l この濃度では死に至らない。

#### その他の成分

##### 急性毒性 (吸入)

LC50 は決められていない。

---

## 12. 環境影響情報

---

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

### 生態毒性

#### エチレングリコール

##### 魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

LC50, Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ), 止水式試験, 96 h, 72, 860 mg/l, 他のガイドライン

##### 無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, Daphnia magna (オオミジンコ), 止水式試験, 48 h, > 100 mg/l, OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

##### 藻類/水生植物に対する急性毒性

ErC50, Pseudokirchneriella subcapitata, 96 h, 生長率阻害, 6, 500 - 13, 000 mg/l, 他のガイドライン

##### 微生物毒性

EC50, 活性汚泥, 30 min, 225 mg/l, OECD 209 試験

#### トリシクラゾール

##### 魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC50/EC50 1~10 mg/L)。

推定値。

LC50, ニジマス (*Oncorhynchus mykiss*), 96 h, 7.31 mg/l

#### 無脊椎動物に対する急性毒性

LC50, イースタン オイスター (*Crassostrea virginica*), 96 h, 3.2 mg/l

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 止水式試験, 48 h, 34 mg/l, OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

#### 藻類/水生植物に対する急性毒性

ErC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72 h, 16 mg/l, OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの

ErC50, イボウキクサ (*Lemna gibba*), 14 d, 6.5 mg/l

#### 微生物毒性

EC50, 活性汚泥, 3 h, 呼吸速度, > 250 mg/l

#### 魚類に対する慢性毒性

無影響濃度, *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ), 33 d, 0.743 mg/l

#### 地上生物に対する毒性

物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない (LD50 > 2000 mg/kg)。

物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない (LC50 > 5000 ppm)。

経口 LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 d, 30.9 マイクログラム/蜂

接触 LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), > 99 マイクログラム/蜂

経口 LD50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), > 2176mg/kg 体重

食餌 LC50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), > 5620mg/kg 餌

#### 土壌生息生物類に対する毒性

LC50, *Eisenia fetida* (ミミズ), 14 d, > 1,000 mg/kg

### その他の成分

#### 魚類に対する急性毒性

関連のあるデータは得られていない。

### 残留性・分解性

#### エチレングリコール

生分解性: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。物質は最終的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では無機化が 70% 超に達する。

10-day Window: 合格

生分解: 90 - 100 %

曝露時間: 10 d

方法: OECD テストガイドライン 301A あるいは同等のもの

10-day Window: 非該当

生分解: 90 %

曝露時間: 1 d

方法: OECD テストガイドライン 302B あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 1.29 mg/mg

トリシクラゾール

## 生分解性:

生分解: 4.2 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301D あるいは同等のもの

物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

## 水中での安定性 (半減期)

加水分解, 半減期, &gt; 32 d, pH 3 - 9, 半減期温度 51 ° C

その他の成分

生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

## 生体蓄積性

エチレングリコール

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF &lt; 100 または Log Pow &lt; 3)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): -1.36 測定値

トリシクラゾール

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF &lt; 100 または Log Pow &lt; 3)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 1.42 OECD テストガイドライン 107 あるいは同等のもの

生物濃縮因子 (BCF) : 8.97 魚類

その他の成分

生体蓄積性: 関連のあるデータは得られていない。

## 土壌中の移動性

エチレングリコール

ヘンリー定数が極めて低いので、自然水系や湿った土壌からの蒸発は多くないと考えられる。

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

分配係数 (Koc): 1 推定値。

トリシクラゾール

土壌中移動性が中程度である (Koc 150~500)。

分配係数 (Koc): 156.3 - 176.9

その他の成分

関連のあるデータは得られていない。

## オゾン層への有害性

エチレングリコール

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

トリシクラゾール

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

#### その他の成分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

#### 他の有害影響

#### エチレングリコール

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

#### トリシクラゾール

当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。当物質は、極めて高い残留性および極めて高い生物蓄積性(vPvB)であるとは見なされない。

#### その他の成分

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

---

### 13. 廃棄上の注意

---

**廃棄方法:** 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のときにのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を定める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

---

### 14. 輸送上の注意

---

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID):

Not regulated for transport

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG):

Not regulated for transport

MARPOL 73/78 の Annex I

Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

または II および IBC または  
IGC コードに従い積荷を運搬  
する。

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO):

Not regulated for transport

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

安衛法 表示対象物質 安衛法 通知対象物質

### 成分

### CASRN

エチレングリコール	107-21-1
トリシクラゾール	41814-78-2

### 農薬取締法

## 16. その他の情報

### 改訂

ID 番号: 11002557 / 発行日: 2020/10/28 / 版番号: 1.3

最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

### 凡例

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値 (TLV)
Dow IHG	ダウ社内ガイドライン
OEL-M	許容濃度
STEL	短時間暴露限界
TWA	8 時間、時間加重平均
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

### その他の略語の全文

AIGS - オーストラリア化学物質インベントリ; AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50% 阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化

学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - テリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社 は、お客様や(M)SDS の受領者の皆様が、この(M)SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M)SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDS に関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDS をお持ちの場合や、お手元の(M)SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP